



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 182

Boys, be ambitious!

270年近く続いた江戸幕府が終わった1868年の明治維新、それは武士の大量失業を意味した。ペリーの黒船来航後に米国が日本に圧力をかけなかったのは、戦死者62万人を出すリンカーン奴隷解放の南北戦争が勃発したからである。

➤ の米国の内乱に理想に燃えて義勇兵として参戦した34歳の青年がいた。マサチューセッツの裕福な医師の家に生まれて全米屈指の大学に入学し、26歳の若さで教授に抜擢され、化学・植物学・動物学を受け持つ凄腕の先生として名声を得る。祖国の危機に戦場に赴くが、教え子たちが次々に銃弾に倒れていく。戦後は荒れ果てた国土だけが残った。若者に農業を教えよう! 40歳の彼は農業大学を設立して学長になる。当時まだ酪農は最先端の農業分野だった。欧米でも初めて牛乳を飲むようになったのは実はこのころからである。

軌道に乗ってきたころ、日本から使者がやってきて、2年で酪農専門家を育ててくれ! 江戸幕府と維新派の内乱である戊辰戦争直後の日本は衰退し、復興させないと明日がない、開拓地の北海道で若者を育てたいと必死の願いが届いたのである。学長が席を空けるのに2年は長すぎる、遠い未開の日本は危険だなどと米国の大学では大反対される。だが、同じ内戦後で立ち上がろうと必死に努力している日本、1年で終わらせて必ず帰国するから! と説得、妻と子どもたちを残して、単身日本へ向かう。1876年、札幌農学校の教頭に就任した49歳のWilliam Clarkである。

農 学校では、16歳から20歳まで24人の生徒が待っていた。彼らは藩士の次男や三男。士農工商という身分制度の士族という最上段に位置していた彼らは、戊辰戦争で敗れた旧幕府賊軍、落ちぶれた負け犬とはいえプライドは高い。故郷では食いぶちのない彼らに残された道は開拓地に渡ることだったとはいえ、身分意識が強く残る時代に百姓にならなければならない憤懣が鬱積していた。各地から集まった生徒たちは、酒を飲んで、お互いを田舎者扱いする喧嘩の連夜。授業もうまくいかないまま、開校1カ月で5人が退学処分になるありさまだった。

米国から持ち込んだ牛だが、餌の草がない。牧草を育ててもらえないかと地元の農家に依頼するが、人が口にしない草を大切な畑に植えてどうする? 異人は異常だ! と一蹴される。さりとて後には引けない。酒好きで米国から持参したワインを投げ割ってみせ、皆にも禁酒を誓わせ、校則の本は破り捨てて、「Be Gentleman!」、自己を律する紳士であれ! と宣言し、全員が署名して意を新たにす。博士は、学生の英文法やスペルチェックも深夜まで添削指導した。

そんな熱血指導の8カ月が経ったころ、西郷隆盛が明治新政府軍に反乱を起こした西南戦争が勃発。祖国の南北戦争を彷彿とさせ、この国でも教え子たちが戦場へ赴くことが現実となりつつあった。二度と生徒を死なせたくない。博士は、札幌時計台の建設を始める。屋根の下に柱のない風船みたいな大きな空間の構造は、武道や軍事訓練を行なう演武場として設計した。わが身を護ることを身につけて生き残ることで、長年にわたって会得した学問も知恵も後世に残すことができるからだ。

博士は9カ月で帰国するが、別れの挨拶でこう言った。「Boys be ambitious, like this old man (少年よ、大志を抱け! この老人のように!)」。

米 国に帰国後8年の58歳時、教え子の一人が日本から博士を訪ねてくる。日本で生徒たちと過ごした日々が私の人生で最良の時間だった……病床の博士は涙を流して懐かしんだ。その教え子は、同志社大学を創設した新島襄である。生徒には、後の開拓使長官、総理大臣になった黒田清隆など歴史に残る多士済々がいる。札幌農学校、現在の北海道大学は、博士の帰国から12年後にようやく花開き、1889年には牛乳のよく出るホルスタインを導入して3割増しの乳量になる。最初は3頭の牛だったのを繁殖させて現在では1259代目となり、全国生産乳量の4割が北海道産にまでなる。

博士のこうした功績の詳細を知る人は少ない。彼は59歳で他界し、教え子たちは札幌の時計台に集まって師をしのんだ。そのとき、皆がクラークになっていたかどうかは、記録にない。